

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あすなるSTEP		
○保護者評価実施期間	令和8年3月16日	～	令和8年3月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 14	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	令和8年3月16日	～	令和8年3月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7	(回答者数)	7
○訪問先施設評価実施期間	令和8年3月16日	～	令和8年3月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数) 4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月30日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育所等訪問支援計画の作成において、職員間での共有や連携が図られており、こどもの最善の利益を考慮した支援体制が整えられている。 また、保護者評価や職員の意見を業務改善に活かす仕組みが機能している。	保護者評価や職員の意見を定期的に確認し、会議や日々のミーティングの中で共有することで、支援内容や運営の見直しにつなげている。 また、支援計画作成時には複数の職員が関わることを意識し、子どもの状況を多角的に捉えた検討を行っている。	アセスメントの定期実施や評価手法の統一を図り、より客観的で質の高い支援計画の作成につなげる。
2	訪問支援において、個々の特性に応じた教材や関わりを工夫しながら支援が行われており、記録や振り返りを通して継続的な支援の質の向上に努めている。	子どもの特性や発達段階に応じて教材や関わり方を工夫し、既存教材の組み合わせや現場での柔軟な対応を行っている。 また、支援後には記録を残し、振り返りを通して次の支援に活かすことを意識している。	教材や支援方法のバリエーションを増やし、職員間で共有することで、支援の幅と質の向上を図る。
3	保護者や関係機関との連携を意識した支援が行われており、日常的な情報共有や相談対応を通して、信頼関係の構築が図られている。	訪問先施設や保護者との情報共有を日常的に行い、支援内容や子どもの様子について丁寧に伝えることを心がけている。 また、相談があった際には速やかに対応するなど、安心して相談できる関係づくりを意識して取り組んでいる。	保護者支援(面談・助言・交流機会)の充実を図り、家庭と連携した支援体制をさらに強化する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報共有や連携の深さに職員間で差があり、支援前後の打ち合わせや振り返りの時間が十分に確保できていない場合がある。	業務時間の制約や仕組みの不足	支援前後の打ち合わせや振り返りの時間を確保し、情報共有の質と量を高めるための仕組みづくりを行う。 (例：簡易共有ツールの活用、定例ミーティングの設定)
2	研修参加や外部評価の活用、情報発信(SNS・通信等)において、実施はしているものの周知や活用にはばらつきが見られる。	周知方法や運用ルールの未整備	研修や情報発信について、参加しやすい体制や定期的な発信ルールを整備し、職員・保護者双方への周知を強化する。
3	訪問先施設との連携や地域との交流機会が限定的であり、関係機関との連携体制の強化が必要である。	計画的な連携機会の不足	訪問先施設や地域との連携を強化するため、定期的な情報交換や交流機会を計画的に設ける。